

様式第4号（第9条関係）

令和 6年10月23日

小野市議会議長 高坂 純子 様

派遣議員 村本 洋子

### 議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

#### 記

#### 1 派遣日

令和6年10月17日（木）～令和6年10月18日（金）

#### 2 派遣議員

平田議員、掘井議員、山本麻貴子議員、宮脇議員、喜始議員、  
河島三奈議員、前田光教議員、小林議員、村本

#### 3 派遣先

アクリエひめじ（姫路市文化コンベンションセンター）

#### 4 内容

第86回 全国都市問題会議

健康づくりとまちづくり

～市民の一生に寄り添う都市政策～

第一日 10月17日（木）

基調講演

生命を捉えなおす

－動的平衡の視点から－

生物学者/青山学院大学教授 福岡 伸一

動的平衡の生命観 自らを積極的に壊しつつけることによって、系内にたまるエントロピーを捨てつつけ、またそれを作り直すことでなんとかバランスを保つ。

私たちの身体が、時間の関数として絶えず変化しつつ、それでいて柔軟で、適応的で、相補的であり、同時に、レジリエントなもの。生命現象では、あらゆるものが壊されることを予定して創られている。

## 主報告

市民の「LIFE」（命・くらし・一生）を守り支える  
姫路の健康づくりとまちづくり

兵庫県姫路市長 清元 秀泰

人生 100 年時代の到来へ  
～健康づくりの重要性～

1. 日本の平均寿命 1947 年 男性 50.06 歳 女性 53.96 歳  
2020 年 男性 81.56 歳 女性 87.71 歳  
70 年間で 30 歳以上延伸
2. 当市の健康寿命 平均寿命と健康寿命の差 男性 1.26 歳  
女性 2.64 歳  
厚生労働科学研究「健康寿命の算定プログラム」使用
3. 健康とは 少子高齢化社会において、あらゆる世代の人々が状況に応じた多様な社会参加ができる環境整備を進めることが必要であり、その前提が「健康」  
単に長寿であるだけでなく、健康寿命を延伸させることが重要
4. 健康がまちの活力を生み出す  
まちに活力を生み出し、持続可能な社会

を実現するために、健康づくりへの支援  
はこれまで以上に重要なもの

#### 健康づくりに資する当市の取り組み

1. 市民による主体的な介護予防を促進
  - ① 軽度認知障害等の予防支援
  - ② 生活習慣の改善ならびに各種疾病の早期発見・重症化予防
  
2. ウォーカブルなまちづくり
  - ① 公共空間の利活用、歩行者利便増進道路「ほこみち」
  - ② Himeji 大手前通りイルミネーション
  
3. ICT を活用した健康づくり
  - ① マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化
  - ② 「ひめじポイント」を活用した健康づくりの促進
  
4. 未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援
  - ① こどもの未来健康支援センター「みらいえ」の開設
  - ② 子育て情報の発信

#### 一般報告

##### 生き物から学ぶ健康なまちづくり

筑波大学システム情報系教授 谷口 守

##### 市民の健康づくりにおけるまちづくりの重要性

経年的な個人の交通行動データの観察から、人がどんどん歩かなくなっていることに危惧を感じた。都市を生き物にたとえること、現代の日本の都市が生活習慣病に罹患していると具体的に説明することが有効

##### バイオミメティクス（生物模倣）への展開

生物が有する優れた機能を新たな材料や機械などに取り入れようとした試みは無数に存在

道路や鉄道などの交通ネットワーク＝血管などの循環機関

1つ1つの建物や部屋＝細胞  
活動するうえで＝エネルギーや排泄物  
通信網＝神経系  
このように考えれば、元気な活気ある都市は、健康な生命体

都市は病気？

- ① 循環不全
- ② 肥満
- ③ 骨粗しょう症
- ④ がん

競争から協調へ

補助金のカンフルを打って競争を促進するのではなく、周囲と協調しながら都市構造の体質改善を図っていく

一般報告

都市そのものを健康にするまちづくり  
～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～

千葉県流山市長 井崎 義治

1. 「健康都市」という考え方との出会い
2. つくばエクスプレス沿線区画整理事業で失う緑を回復する方策はないか
3. 環境価値・景観価値を高める「グリーンチェーン制度と認定制度  
流山市は、「都市そのものを健康に」するために、「すべての政策に健康視点を」基軸とした政策の立案と推進により、すべての市民のストレスを軽減し、同時にリフレッシュできる環境整備や施策展開に継続的に取り組んでいく

## 一般報告

IT/AI の健康分野への適用例

～姫路市の健診データ解析と歌唱による誤嚥予防～

兵庫県立大学副学長 畑 豊

1. 2008年～2012年の姫路市の健康診断データを用いた解析について
  - ① 統計解析結果 姫路市では、40歳以上でHbA1c, LDL, 尿酸が高い可能性はある。
  - ② ファジィ論理による健診データ評価
  - ③ ファジィ値を用いた解析結果
  - ④ ファジィ統合検査指数の導入
2. AIによる嚥下解析とその歌唱による誤嚥への挑戦

第二日 10月18日（金）

パネルディスカッション

健康づくりによるまちづくり パネルディスカッションにあたって

中央大学法学部教授 宮本 太郎

心理社会面から見た、こどもの健康

高岡病院児童精神科医 三木 崇弘

食を切り口とした1人1人の望む暮らしを支援する栄養パトロール事業

NPO法人日本栄養パトネット理事長 奥村 圭子

未来型「ゆい」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築

長野県茅野市長 今井 敦

「未病予防対策先進都市」を目指した「官民連携」「市民供創」のまちづくり  
大阪府泉大津市長 南出 賢一

少子高齢化時代のまちづくりを考える時、「元気人口」を増やすことが焦点。元気や健康のために自治体ができることは何か。このことを考える上でたいへん触発的な取り組みをされている2人の専門家と2人

の市長さんからお話を伺い、議論を深めた。

## 5 所 感

健康づくりとまちづくりを生命の問題として捉え、動的平衡の視点からの講演は、興味深いものでした。生命現象では、あらゆる物が壊されることを予定して創られていると、いう生命体の特性の視点から物事を考察することも意義深く感じました。

平均寿命と健康寿命との差を縮小することは、住民生活に密接に関わっている自治体が、地域の実情を踏まえ、健康づくり政策を推進することが求められていると思います。

姫路市で行われているウォークブル推進計画の、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」や「ほこみち」など官民一体となつての取り組みはたいへん素晴らしく、参考にしていきたいと思います。

パネルディスカッションでは、有意義な意見が聞けてたいへん参考になりました。健康問題は誰もが当事者で関心を高めることができるテーマでもあります。しかし、健康状態や健康課題は人によって異なるため、自ら自分に合った健康づくりを見つけ、積極的に取り組んでもらえる環境づくりが重要です。そして自治体がどのように寄り添っていくのか、地域の実情を踏まえながら、独自性のある健康づくり政策に取り組み、誰もが生き生きと暮らせるまちの実現を目指していきたいと思います。

これからも先進的な事例を研究し、一過性のもので終わらせるのではなく、将来にわたり健康づくりとまちづくりを進めていきたいと思ひます。